

証券コード4651

SANIX

2011年3月期 決算説明会

株式
会社 **サニックス**

2011年 5 月 12 日

(注) 数値については、単位未満を切り捨てて表示しております。

目 次

1. 2011年3月期 決算概況 P. 1

2. 2012年3月期 業績見通し P. 10

免責事項


本資料には、将来の業績予測に関する記述が含まれています。こうした将来の業績予測に関する記述は、将来業績を保証することを意図するものではなく、一定の前提条件と経営陣の現時点で入手可能な情報に基づく判断に基づくものです。従いまして、将来時点における実際の収益及び業績は、こうした将来の業績予測に関する記述と大きく異なる可能性があります。

以下の要因により、将来時点における当社の業績は、本資料内の将来の業績予測に関する記述と大きく異なる可能性があります。

日本の景気動向、日本のサービス業の業績動向、他のサービス業者との競争環境、技術革新、規制環境、法律環境及びその他の弊社の予測を超える様々な要因

本資料は当社が発行する証券への投資を勧誘することを企図した資料ではありません。本資料に含まれる情報に基づいて発生した損失・債務に関して、当社は一切の責任を負わない旨をご了承下さい。

2011年3月期 決算概況



2011年3月期 決算概況

前期比増収増益となり、最終利益は黒字化

売上高	：	28,979百万円	（前期比増減額	+4,440百万円）
営業利益	：	501百万円	（前期比増減額	+111百万円）
経常利益	：	430百万円	（前期比増減額	+205百万円）
当期純利益	：	49百万円	（前期比増減額	+3,725百万円）

◆売上高◆

HS・ES両事業部門においては、太陽光発電システム販売に注力した結果、前期比増収となった。

また、環境資源開発事業部門において、廃プラ加工処理収入、売電収入が前期比増収となったほか、最終処分場買収に伴う埋立処分等収入が通期で加わったことにより、環境資源開発事業部門全体で前期比増収となり、グループ全体の売上高は、前期比18.1%増となった。

◆利益面◆

前期比増収となったことにより、営業利益・経常利益はともに増益となった。

また、特別損失として資産除去債務会計基準の適用に伴う損失額114百万円、「東日本大震災」による影響額として35百万円を計上したこと等により、当期純利益は49百万円となった。

2011年3月期 損益の実績

(単位: 百万円)

	2010/3期	2011/3期			計画値	計画比	計画差異
	実績値	実績値	売上比	前期比			
売上高	24,539	28,979	100.0%	118.1%	30,000	96.6%	△ 1,020
H S 部門	14,056	16,656	57.5%	118.5%	17,370	95.9%	△ 713
E S 部門	2,547	2,811	9.7%	110.3%	2,805	100.2%	6
環境資源	7,934	9,511	32.8%	119.9%	9,825	96.8%	△ 313
売上原価	14,621	18,703	64.5%	127.9%	18,600	100.6%	103
売上総利益	9,918	10,275	35.5%	103.6%	11,400	90.1%	△ 1,124
販管費	9,527	9,773	33.7%	102.6%	10,100	96.8%	△ 326
営業利益	390	501	1.7%	128.6%	1,300	38.6%	△ 798
経常利益	224	430	1.5%	191.2%	1,230	35.0%	△ 799
当期純利益	△ 3,676	49	0.2%	—	900	5.5%	△ 850

■「東日本大震災」の影響等により、HS事業部門及び環境資源開発事業部門において計画比減収となったほか、太陽光発電システムの売上比率が高まったこと、苫小牧発電所にて小規模トラブルの発生により費用が増加したこと等の理由により、売上原価は計画値を超過した。

引き続き、合理化推進により販管費は計画値を下回ったものの、営業利益は計画比減益となった。

2011年3月期 セグメント別損益の実績

(単位:百万円)		2010/3期	2011/3期					
		実績値	実績値	売上比	前期比	計画値	計画比	計画差異
HS 部門	売上高	14,056	16,656	100.0%	118.5%	17,370	95.9%	△ 713
	売上総利益	8,455	7,964	47.8%	94.2%	8,550	93.2%	△ 585
	販管費	5,090	5,356	32.2%	105.2%	5,640	95.0%	△ 283
	営業利益	3,365	2,607	15.7%	77.5%	2,910	89.6%	△ 302
ES 部門	売上高	2,547	2,811	100.0%	110.3%	2,805	100.2%	6
	売上総利益	1,037	974	34.7%	93.9%	1,050	92.8%	△ 75
	販管費	826	820	29.2%	99.2%	810	101.3%	10
	営業利益	211	153	5.5%	72.8%	240	64.0%	△ 86
環境 資源	売上高	7,934	9,511	100.0%	119.9%	9,825	96.8%	△ 313
	売上総利益	424	1,337	14.1%	314.8%	1,800	74.3%	△ 462
	販管費	1,537	1,553	16.3%	101.0%	1,600	97.1%	△ 46
	営業利益	△ 1,112	△ 215	—	—	200	—	△ 415
配賦 不能	営業利益	△ 2,073	△ 2,043	—	—	△ 2,050	—	6

2011年3月期 「東日本大震災」による影響

- ◆HS事業部門の太陽光発電システム販売において、東日本エリアの販売店向け卸販売で納品の延期が生じたほか、西日本エリアにおける当社顧客向け直販においても震災後の混乱により、3月に予定していた施工が4月以降に延期となった。
- ◆環境資源開発事業部門「廃プラ加工処理収入」において、多賀城工場が地震と津波による被害を受けたほか、他工場においても混乱の影響により計画比減収となった。
なお、多賀城工場については、災害損失として35百万円を特別損失に計上。
- ◆苫小牧発電所において、震災後に設備点検を実施したため稼働日数が減少し、「売電収入」は計画比減収となった。

■セグメント別震災による業績への影響額

(単位:百万円)	減収影響額	営業損益影響額
震災による影響額合計	△ 963	△ 417
H S 事業部門	△ 784	△ 225
E S 事業部門	△ 13	△ 8
環境資源開発事業部門	△ 166	△ 182

減収影響額の内訳

- HS事業部門
(太陽光発電システム)
4月以降に延期 : 775百万円
キャンセル : 8百万円
- ES事業部門
4月以降に延期 : 13百万円
- 環境資源開発事業部門
廃プラ加工減収 : 83百万円
売電収入の減収 : 82百万円

2011年3月期 HS事業部門

■太陽光発電システムが前期比大幅増収

補正予算により政府補助金が追加となったことを受け、今後の主力商品として成長させるべく、4Qより太陽光発電システム販売に注力した。その結果、当該商品販売は計画比増収となった一方で、営業手法の移行が想定通り進まず、既存商品販売は計画比減収となった。

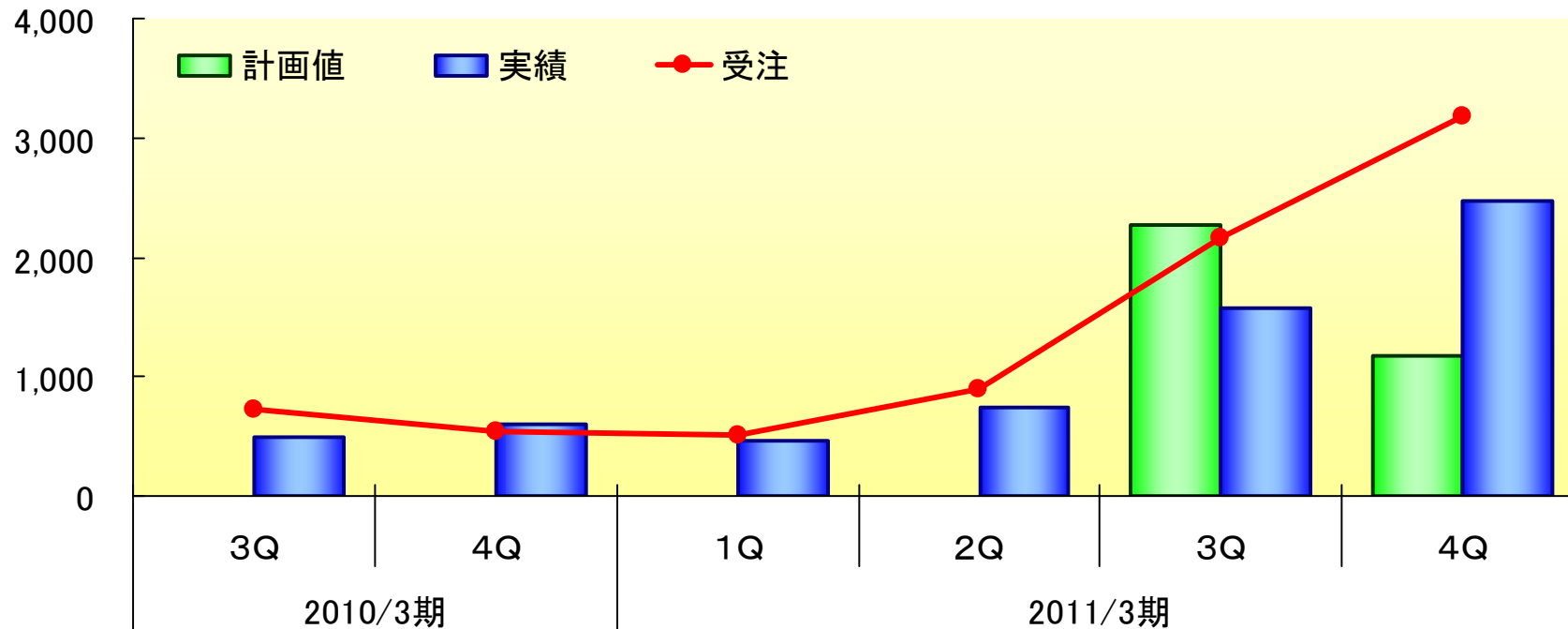
また、「東日本大震災」による減収の影響に加え、既存商品に比べて原価率の高い太陽光発電システムの売上比率が高まったことにより、営業利益は計画比10.4%減の2,607百万円となった。

	2010/3期		2011/3期		
	実績値	前期比	計画値	計画比	計画差異
(単位:百万円)					
売上高合計	14,056	118.5%	17,370	95.9%	△ 713
シロアリ防除施工	4,775	85.8%	4,260	96.1%	△ 164
床下・天井裏換気システム	2,996	85.7%	3,100	82.8%	△ 531
基礎補修・補強工事	2,584	68.1%	2,020	87.1%	△ 260
家屋補強システム	393	89.1%	390	89.9%	△ 39
太陽光発電システム	1,086	484.1%	4,670	112.7%	591
その他	2,219	118.1%	2,930	89.4%	△ 309
営業利益	3,365	77.5%	2,910	89.6%	△ 302

2011年3月期 HS-太陽光発電システム販売の推移

■太陽光発電システム販売の四半期推移

(単位:百万円)



■3月に震災の影響を受けたものの、堅調に推移

- 顧客向け直販は、4Qより更に太陽光発電システム販売に特化した活動へシフト。引き続き堅調に推移したものの、震災等の影響により、一部施工が4月以降に延期となった。
- 販売店向け卸販売については、主な営業活動拠点である東日本エリアにおいて、震災の影響によるキャンセル及び納品の延期が生じた。

2011年3月期 ES事業部門

■主力商品に成長させるべく太陽光発電システムに注力

集合住宅を対象として太陽光発電システム販売に注力した結果、既存商品販売は計画比減収となったものの、太陽光発電システム販売は計画比増収なり、全体ではほぼ計画通りとなった。

利益面においては、原価率の高い太陽光発電システムの売上比率が高まったため、営業利益は計画比64.0%の153百万円となった。

	2010/3期		2011/3期		
	実績値	前期比	計画値	計画比	計画差異
(単位:百万円)					
売上高合計	2,547	110.3%	2,805	100.2%	6
防錆機器取付施工	693	98.1%	720	94.5%	△ 39
建物給排水補修施工	869	88.6%	799	96.4%	△ 28
建物防水塗装補修施工	197	215.9%	486	87.9%	△ 58
太陽光発電システム	—	—	121	244.8%	176
その他の	786	80.8%	678	93.7%	△ 43
営業利益	211	72.8%	240	64.0%	△ 86

2011年3月期 環境資源開発事業部門

■前期比増収となり収益性が改善

「東日本大震災」の影響により、廃プラ加工処理においては多賀城工場が地震及び津波による浸水被害を受けたほか、その他の各工場においても一部混乱の影響を受け、計画比減収となった。

また、売電収入においては、苫小牧発電所にて経年劣化に伴う設備補修が想定以上に発生したほか、震災の影響により、急遽設備点検を実施する等、稼働日数が計画を下回り、計画比減収となった。

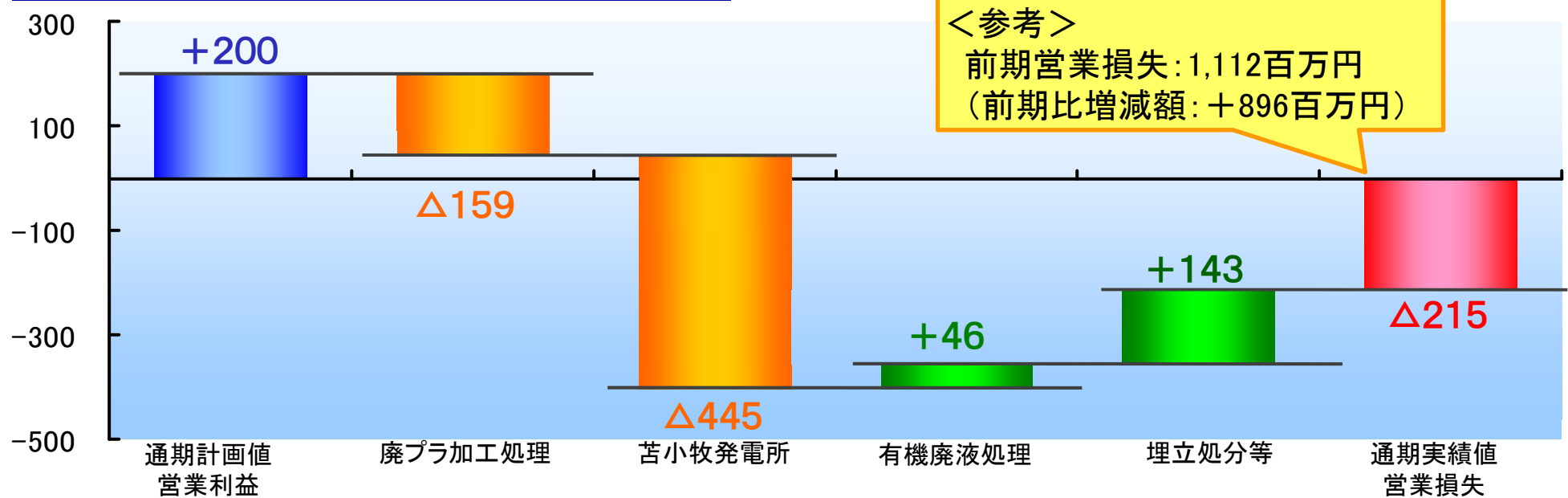
利益面では、主に苫小牧発電所の稼働計画未達による減収及び修繕費の増加により、収益性改善の傾向は見られるものの計画には及ばなかった。

	2010/3期		2011/3期		
	実績値	前期比	実績値	前期比	計画差異
(単位:百万円)					
売上高合計	7,934	119.9%	9,511	119.9%	△ 313
廃プラ加工処理	4,295	116.9%	5,023	116.9%	△ 167
有機廃液処理	1,474	97.9%	1,444	97.9%	△ 5
売電収入	1,276	111.9%	1,427	111.9%	△ 397
埋立処分等収入	415	226.0%	939	226.0%	124
その他	472	143.2%	676	143.2%	132
営業利益	△ 1,112	—	△ 215	—	△ 415

環境資源開発事業部門 計画比減益要因

■環境資源開発事業部門における営業損益の分析

(単位:百万円)



*** 廃プラ加工処理**

震災に伴う搬入減による減収及び廃プラ燃料品質向上等に伴うコスト増により、計画比減益。

*** 苫小牧発電所**

震災に伴う設備点検及び経年劣化に伴う設備補修等の影響により稼働日数が減少し、計画比減益。

*** 有機廃液処理**

売上原価及び販管費コスト低減により、計画比増益。

*** 埋立処分等**

グループ外搬入量増加に伴い、計画比増益。

SANIX



**2012年3月期
業績見通し**



2012年3月期 業績見通し

通期連結業績見通し

売上高	：	38,000百万円	（前期：	28,979百万円）
営業利益	：	1,300百万円	（前期：	501百万円）
経常利益	：	1,250百万円	（前期：	430百万円）
当期純利益	：	830百万円	（前期：	49百万円）

HS事業部門

政府や地方自治体による補助金制度の継続により、市場の拡大が予想されることから、太陽光発電システム販売の推進に重点を置き、前期比大幅な増収を見込む。

ES事業部門

引き続き、賃貸物件管理会社及び分譲物件管理会社への法人営業を推進し、HS事業部門同様、太陽光発電システム販売を推進する。

環境資源開発事業部門

廃プラ加工処理については、「東日本大震災」の影響が1Qまで続くと予想されるものの、2Q以降は徐々に解消され、堅調な推移を見込む。

苫小牧発電所においては、前期3Q以降取り組みを強化した廃プラ燃料品質向上の影響による安定的連続運転及びオペレーションによる修繕費の削減により、収益改善を見込む。

2012年3月期 通期業績見通し

(単位:百万円)	2012/3期							
	第2四半期累計				通期			
	計画値	売上比	前期比	前期比増減額	計画値	売上比	前期比	前期比増減額
売上高	17,410	100.0%	119.2%	2,800	38,000	100.0%	131.1%	9,020
HS部門	10,910	62.7%	125.7%	2,228	24,565	64.6%	147.5%	7,908
ES部門	1,672	9.6%	126.5%	349	3,455	9.1%	122.9%	643
環境資源	4,828	27.7%	104.8%	222	9,980	26.3%	104.9%	468
売上原価	11,629	66.8%	136.7%	3,119	25,944	68.3%	138.7%	7,240
売上総利益	5,781	33.2%	94.8%	△ 318	12,056	31.7%	117.3%	1,780
販管費	5,516	31.7%	111.1%	549	10,756	28.3%	110.0%	982
営業利益	265	1.5%	23.4%	△ 867	1,300	3.4%	259.0%	798
経常利益	240	1.4%	22.0%	△ 850	1,250	3.3%	290.7%	819
当期純利益	30	0.2%	3.7%	△ 776	830	2.2%	—	780

■2Q累計期間においては、苫小牧発電所の定期修繕実施により、営業利益計画は低水準となるものの、震災による影響も徐々に解消され、売上高は各事業部門ともに堅調に推移するものと想定。

HS・ES両事業部門における太陽光発電システム販売の推進、及び環境資源開発事業部門における苫小牧発電所の安定的連続運転の実施により、通期では前期比増収増益を見込む。

2012年3月期 セグメント別損益の見通し

(単位:百万円)		2012/3期							
		第2四半期累計期間				通期			
		計画値	売上比	前期比	前期比 増減	計画値	売上比	前期比	前期比 増減
HS 部門	売上高	10,910	100.0%	125.7%	2,228	24,565	100.0%	147.5%	7,908
	売上総利益	4,717	43.2%	94.2%	△ 291	9,242	37.6%	116.0%	1,277
	販管費	3,122	28.6%	113.6%	373	6,057	24.7%	113.1%	700
	営業利益	1,595	14.6%	70.6%	△ 665	3,185	13.0%	122.1%	577
ES 部門	売上高	1,672	100.0%	126.5%	349	3,455	100.0%	122.9%	643
	売上総利益	580	34.7%	115.9%	79	1,208	35.0%	124.0%	233
	販管費	466	27.9%	121.6%	82	938	27.1%	114.3%	117
	営業利益	114	6.8%	97.2%	△ 3	270	7.8%	175.7%	116
環境 資源	売上高	4,828	100.0%	104.8%	222	9,980	100.0%	104.9%	468
	売上総利益	484	10.0%	82.0%	△ 105	1,606	16.1%	120.1%	268
	販管費	744	15.4%	95.5%	△ 34	1,506	15.1%	97.0%	△ 47
	営業利益	△ 260	—	—	△ 71	100	1.0%	—	315
配賦 不能	営業利益	△ 1,184	—	—	△ 127	△ 2,255	—	—	△ 211

2012年3月期 HS事業部門見通し

<具体的戦略>

■既存商品販売

- 個人消費の低迷は当面続くと予想されることから、前期を下回る水準で推移する見込み。

■太陽光発電システム販売

- 顧客向け直販に加え、新規顧客獲得に向けた広告宣伝などの販促活動を段階的に実施。
- 顧客向け直販において、専属の営業職を配置し、通期で太陽光発電システムの販売を推進。
- 販売店向け卸販売については、産業用などの大型案件を視野に入れ、販売拡大を見込む。

(単位:百万円)	2011/3期 実績	2012/3期 計画	前期比増減	
売上高	16,656	24,565	+7,908	●太陽光発電システム販売の堅調な推移により、前期比増収。
売上総利益	7,964	9,242	+1,277	
販売管理費	5,356	6,057	+700	●営業職の増員及び広告宣伝等、販売促進のための政策コストを増額。
営業利益	2,607	3,185	+577	●営業利益は3,185百万円を見込む。 (営業利益率13.0%)

2012年3月期 HS事業部門見通し

「太陽光発電システム」の販売計画

当社顧客向け直販

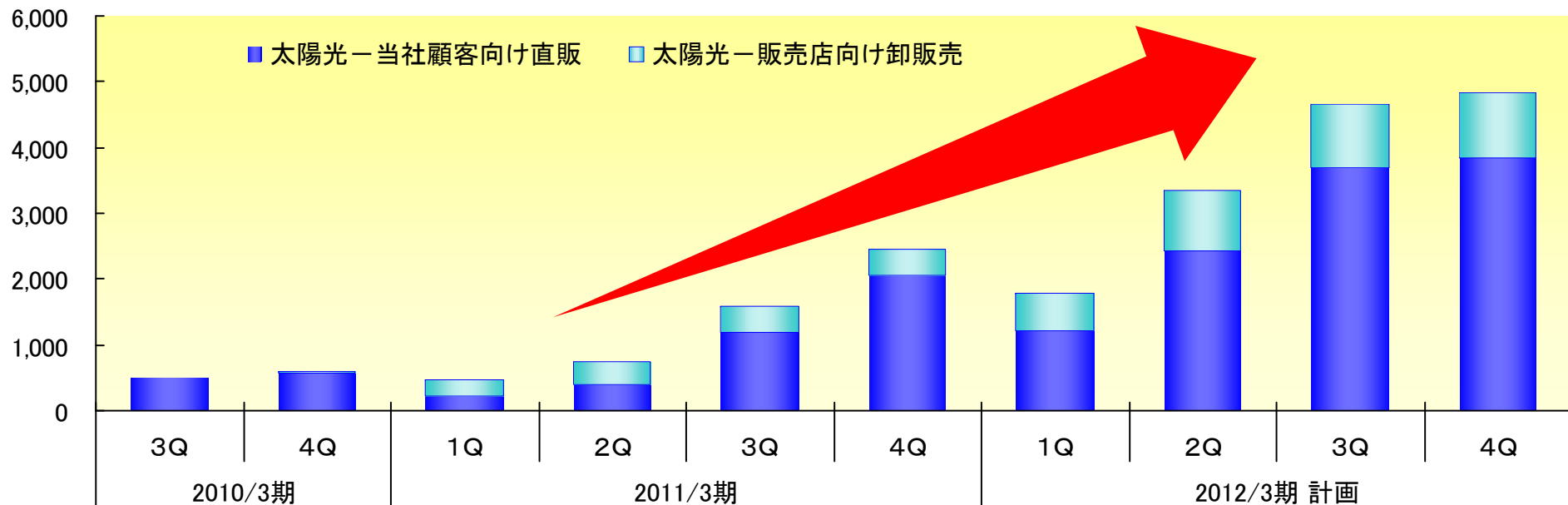
⇒上期において、販売体制整備及び更なる施工効率化を図り、下期以降大幅な増収を見込む。

販売店向け卸販売

⇒販売店向けサポート体制を強化するとともに、産業用等の大型案件への販売体制を整備し、売上拡大を図る。



(単位:百万円)



2012年3月期 ES事業部門見通し

< 具体的戦略 >

■ 選択と集中による効率化をベースに、引き続き法人営業を推進

- 既存商品販売は、高利益率の「防錆機器取付施工」の販売に注力。
- 集合住宅向けの太陽光発電システムを第2の主力商品と位置付け、既存商品販売と太陽光発電システム販売において、各々専属の営業職を配置し、販売を推進する。

(単位:百万円)	2011/3期 実績	2012/3期 計画	前期比増減	
売上高	2,811	3,455	+643	● 太陽光発電システム販売の堅調な推移により、前期比増収。
売上総利益	974	1,208	+233	
販売管理費	820	938	+117	● 営業職増員に伴い、人件費が増加。
営業利益	153	270	+116	● 営業利益は270百万円を見込む。 (営業利益率7.8%)

2012年3月期 環境資源開発事業部門見通し

< 具体的戦略 >

■ 資源循環型発電事業

- 1Qに実施する苫小牧発電所の定期修繕において、前期に発生した経年劣化に伴う設備トラブルを解消するほか、定期修繕以外の自主メンテナンス期間を設け、突発的な設備トラブルを最小限に抑制し、稼働率を向上させる。
- 廃プラ加工処理については、引き続き搬入量拡大及び燃料品質向上を推進する。

■ 有機廃液処理事業

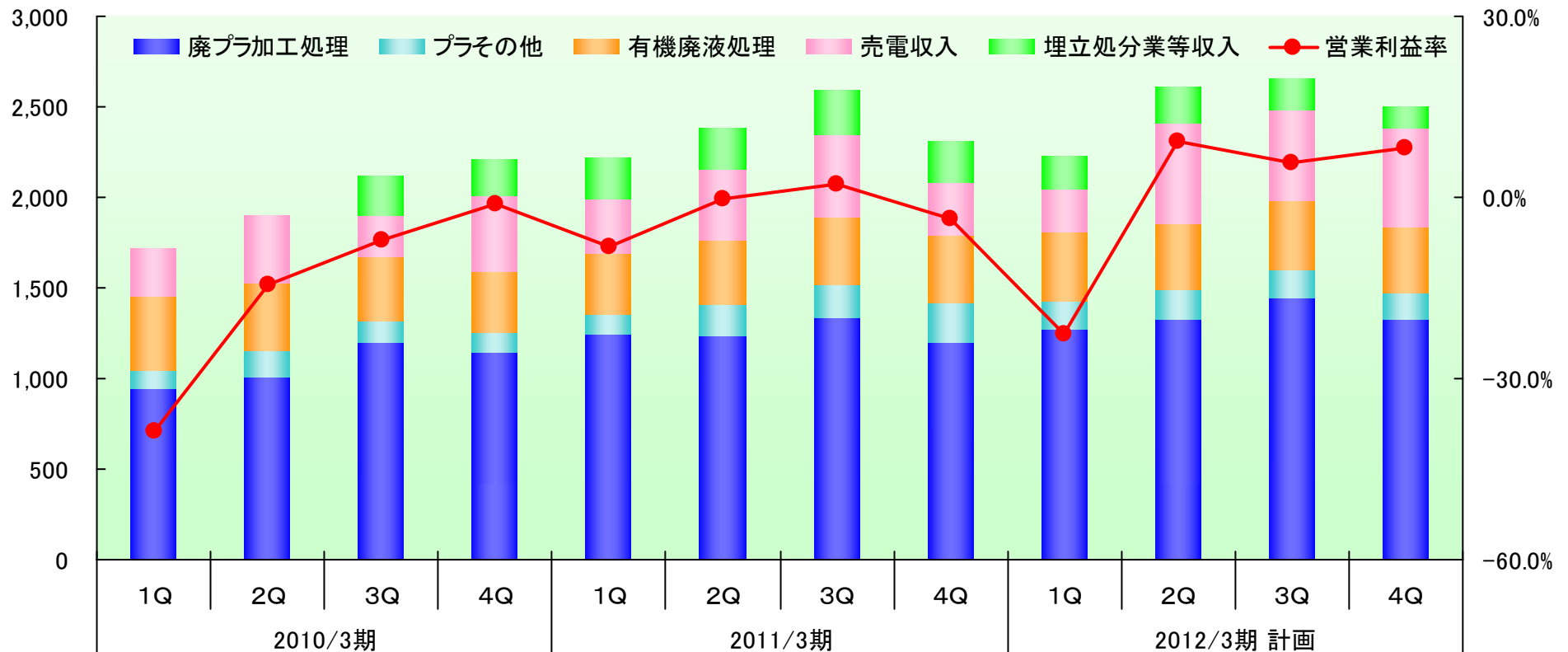
- 引き続きコスト削減による損益分岐点引き下げに注力し、利益体質を維持・強化。

(単位:百万円)	2011/3期 実績	2012/3期 計画	前期比増減	
売上高	9,511	9,980	+468	● 苫小牧発電所の稼働率向上及び廃プラスチック搬入量拡大による増収。
売上総利益	1,337	1,606	+268	● 苫小牧発電所安定稼働によるコスト削減のほか、削減余地のある原価コストを削減。
販売管理費	1,553	1,506	△47	● 引き続き、固定費の抑制に注力。
営業利益	△215	100	+315	● 営業利益は100百万円を見込む。 (営業利益率1.0%)

2012年3月期 環境資源開発事業部門見通し

■売上高・営業利益率の推移

(単位:百万円)

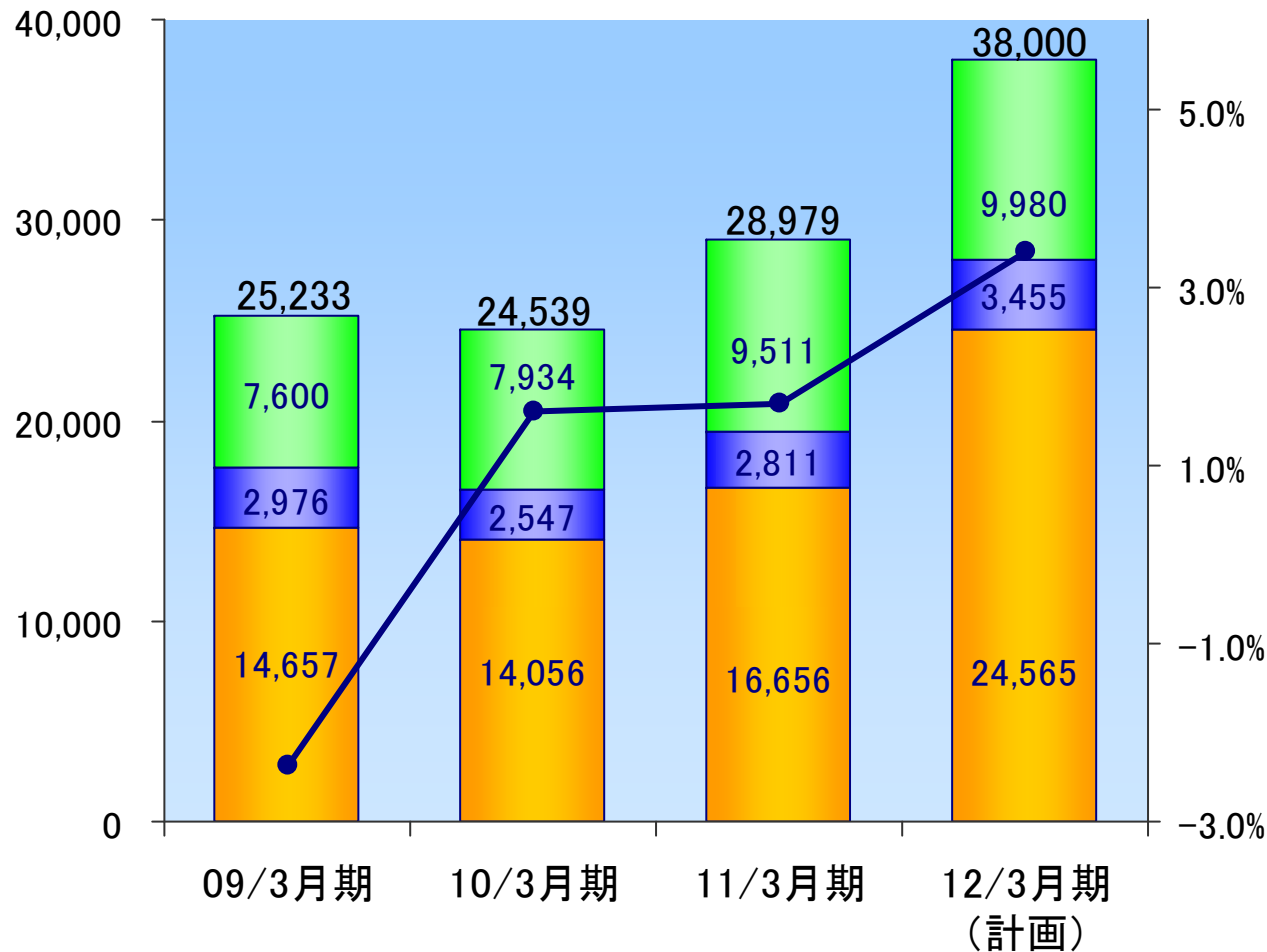


苫小牧発電所において、1Qにおける定期修繕以降は安定的連続運転となることに加え、廃プラ加工処理収入は堅調な推移を見込めることから、資源循環型発電事業の収益性は改善され、通期黒字化を見込む。

2012年3月期 全社見通し

■セグメント別売上高・営業利益率の推移

(単位:百万円)



2012年3月期見通し

売上高：38,000百万円

営業利益：1,300百万円

営業利益率：3.4%

